

小学校算数 第4・5・6学年

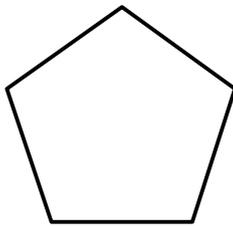
各学年共通した課題		図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりすること	
学年	設問	設問のねらいと問題の概要	正答率(%)
4	大問9 ⑧	○ 四角形の性質についての思考力、判断力、表現力	41.8
5	大問16 ②	○ 合同な三角形を作図することについての知識及び技能	46.2
6	大問13 ⑧	○ 対称な図形についての思考力、判断力、表現力	28.3

課題が見られた設問と誤答例（第6学年）

〔問題〕

次の図形は、左から順に、正五角形、平行四辺形、正六角形であり、それぞれ線対称な図形、点対称な図形、線対称でもあり点対称でもある図形です。

正五角形



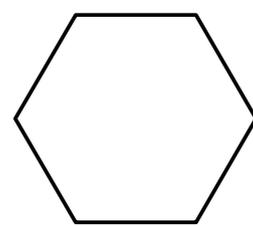
(線対称な図形)

平行四辺形



(点対称な図形)

正六角形



(線対称でもあり点対称でもある図形)

これらの図形について正しく述べたものをアからオまでの中から全て選び、記号で答えなさい。

ア 線対称な図形では、対応する点を結ぶ直線は対象の軸と垂直に交わる。

イ 線対称な図形では、対応する点を結ぶ直線と対称の軸の交わった点から対応する点までの長さは等しくない。

ウ 点対称な図形の中で、対称の中心となる点が2つある図形がある。

エ 点対称な図形では、対称の中心から対応する点までの長さが等しくなる。

オ 正多角形では、辺の数と同じだけ対称の軸がある。

〔正答〕

ア、エ、オ

— 復習のポイント — 小学校第4・5・6学年の皆さんへ

- 第4学年では、「台形」や「平行四辺形」などの四角形の名前と、それらがどのような四角形かを覚えることが大切です。その上で、今回出題された問題のような場面で、四角形の名前と、その四角形である理由を説明できるようにすることがポイントです。
- 第5学年では、合同な三角形をかくには、次の①、②、③のどれかを使えばよいことを覚えることが大切です。覚えて上で、実際に合同な三角形がかけられることを確かめましょう。
 - ① 3つの辺の長さ ② 2つの辺の長さとその間の角の大きさ ③ 1つの辺の長さとその両はしの角の大きさ
- 第6学年では、①線対称な図形、点対称な図形がどのような図形かを覚えること、②線対称な図形の性質、点対称な図形の性質を覚えることが大切です。②については、覚えてきたことをもとにして、実際に線対称な図形や、点対称な図形がかけられることを確認しましょう。また、四角形や三角形、正多角形について、線対称な図形か、点対称な図形か、線対称でも点対称でもある図形かの判断、線対称な図形であれば対称の軸の本数を答えられるようにしましょう。